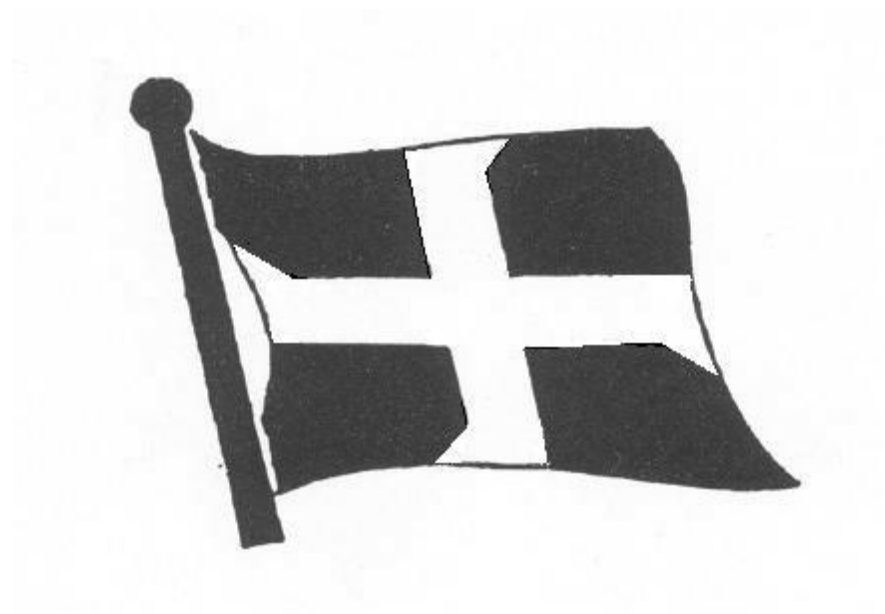


蒼穹NEWS

NO.2

関西インカレ総括号

平成 30 年 5 月 21 日発行



～目次～

- 1 主将挨拶、女子主将挨拶、監督挨拶
- 2 関西インカレ結果
- 3 関西インカレ詳細
- 4 新入生名簿
- 5 関西インカレ OB 様名簿

1. 主将挨拶・女子主将挨拶・監督挨拶

主将挨拶

先日行なわれました関西インカレで、男子は31点を獲得し、総合9位という結果でした。チームとして掲げていた目標が一部残留（総合10位以上）でありましたので、目標を達成することができ本当に嬉しく思います。昨年から今年の関西インカレは二部降格の危機にあると言われ、実際に最終日まで接戦となる非常に厳しい戦いになりましたが、なんとか歴代の先輩方が戦ってこられた一部の座を守ることができ一安心であります。元々の総合得点のランキングは最下位でしたが、柴田(M1)、高野圭(4)、大橋(3)が表彰台に乗る活躍をみせた他にも、多くの選手がランキングを覆して得点を獲得する、またベストを更新するなど、勢いにのり下剋上を起こすことができました。

今後京都大学陸上競技部の対校戦は伊勢予選、七大戦と続きます。目標を達成するためにはまたもチームとしてランキングを覆すパフォーマンスを求められることが予想されますが、現在の勢いに関西インカレで見つけた改善点を加えて、さらに隙のないチームで臨み好成績を勝ち取りたいと思います。

最後になりましたが、関西インカレの5日間蒼穹会の皆様方には本当に多大な声援をいただきました。本当に感謝申し上げますこれからもいつもと変わらぬご支援・ご声援の程をよろしくお願いします。

京都大学陸上競技部主将 安藤 滉一

女子主将挨拶

5日間にわたり行われた関西インカレが終了しました。女子としては、京大京女ダム女合わせて12位相当という目標を掲げて挑んだものの、総合4点で26位という結果に終わってしまいました。

個々人の結果を見れば、この大舞台で自己記録を更新したり、得点まであとほんの少しというところまで迫ったりと、健闘してくれた選手も多くいました。しかし、何人もが点を取り、チームで戦った成果を数字として残すには、個々の選手としてもチームとしてもまだまだ力不足でした。関西インカレという場で思うように戦えない悔しさを噛み締め、来年こそはより高いレベルでの勝負をしようと、部員一同決意を新たにしております。

とはいえ次に女子チームとして目指す対校戦は七大戦です。七大戦ならびに東大戦で必ず優勝するべく、そして今後の女子チームがさらに関西インカレで戦えるチームになれるよう、各選手のレベルアップと全体の意識の底上げに努めてまいります。

最後になりましたが、暑い中雨の中の戦いであつたにも関わらず、応援に駆けつけてくださった蒼穹会の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。誠にありがとうございました。

京都大学陸上競技部女子主将 横山 優花

監督挨拶

4月19日のハーフマラソンから始まった関西インカレが終了しました。男子は31点を獲得して9位となり無事残留を果たしました。今大会は、浅井(2)らを筆頭とした短長勢の躍進を始めとし、柴田(M1)、高野圭(4)、大橋(3)、の3位や4継のランキングを覆しての決勝進出など、選手たちはここぞの場面で素晴らしいパフォーマンスを見せてくれました。また今回ランキング最下位からの1部残留を成し遂げることができたのは、現4回生が危機感を持ってやってきたことが一つの結果として現れたものだと思います。ただ、女子としては目標を達成できず悔しい思いもありますし、チーム全体として見てもまだ粗があり、全日本大学駅伝予選会や七大戦までに改善していきたいと思います。次は、全日本大学駅伝予選会です。今年は記録審査からの出場でチャレンジャーとして長距離部員中心にチーム一丸となって挑みます。

最後になりましたが、蒼穹会の皆様のご声援がなければ5日間という長丁場の試合を戦い抜くことはできなかったと思います。連日、応援に駆けつけていただいた皆様にこの場を借りて厚く御礼申し上げます。

京都大学陸上競技部監督 紀平 直人

2. 関西インカレ結果

第94回関西学生陸上競技選手権大会

男子一部総合成績

1位	立命館大学	158点
2位	関西学院大学	157点
3位	大阪体育大学	93点
4位	京都産業大学	82点
5位	近畿大学	65点
6位	同志社大学	65点
7位	龍谷大学	43点
8位	びわろ大学	31点
9位	京都大学	31点
10位	関西大学	30点
11位	大阪教育大学	28点
12位	天理大学	21点

男子一部トラックの部

1位	関西学院大学	134点
2位	立命館大学	94点
3位	近畿大学	65点

男子二部総合得点

1位	大阪大学	119点
2位	大阪国際大学	87点
3位	びわろ大学	78.5点

男子一部フィールドの部

1位	立命館大学	63点
2位	大阪体育大学	55点
3位	同志社大学	25点

女子総合得点

1位	立命館大学	147点
2位	園田学園女子大学	82.5点
3位	武庫川女子大学	75点

男子一部混成の部

1位	大阪体育大学	13点
2位	同志社大学	8点
3位	大阪教育大学	7点

3.関西インカレ詳細

・第一日目 4月19日(木)

(長居周回コース)

ハーフマラソン

1位	上坂 優太(4)	京都産業大	1:06:17
2位	坂東 剛(4)	関西学院大	1:07:13
3位	畠田 直樹(3)	龍谷大	1:07:24
4位	西川 和希(4)	京都産業大	1:07:34
5位	日下 聖也(4)	京都産業大	1:07:37
6位	藤田 孝介(3)	立命館大	1:08:34
7位	地行 聡一郎(4)	同志社大	1:08:49
8位	森 太一(4)	立命館大	1:09:07
11位	谷口 博紀(4)	京都大	1:11:06
12位	久米 祐輔(M2)	京都大	1:11:25
14位	原田 麟太郎(3)	京都大	1:11:43

男子ハーフマラソンには久米(M2)、谷口(4)、原田(3)が出場した。
久米は最初先頭のほうでレースを進めるが、徐々に失速し、途中で後続の集団にも離されてしまった。ラストは近大の選手に競り勝ち12位でゴール。
谷口は8位を狙える第2集団についていたが、5キロ付近で離れ、こちらは後続の集団につきしばらくレースをしたが、集団がばらけたところで離れてしまった。そのままほぼ単独走を続け、11位でゴールした。
原田は序盤から8位を狙う集団から離れてしまった。それから粘りの走りを見せるが、前には追いつくことができず14位でゴール。
3人とも8位入賞での得点が目標であったが、かなわなかった。
関西インカレで得点することの難しさを感じ知らされた。

・第二日目 5月10日(木)

(西京極)

女子1500m 予選 (3-3+3)

上島 ほのか(2) 1組10着 4:57.27 PB

岸本 絵理(5) 3組10着 4:55.09

1組には上島(2)が出場した。格上を相手に集団の後方に付けたが1周目でやや差をつけられてしまい、集団を追いかける形になった。しかしそこからなんとか粘り、PBを更新した。3組には岸本(5)が出場した。1周目は先頭に近い位置に付けたが2周目からじわじわと差をつけられてしまい、決勝には届かなかった。(芦田)

女子400m 予選 (4-1+4)

後藤 加奈(3) 5組6着 61.36

予選5組には後藤(3)が出場した。レースは序盤8レーン武庫川女子大・小東が飛び出した。200mで7レーン立命館大・南が抜け出して以後は先頭を守り、最後は余裕を持ってフィニッシュした。京大・後藤は200m付近でやや遅れはじめ、ラスト100mで前の選手を1人追い抜くなど粘りを見せたが、6着となった。(堀葉)

男子400m 予選 (3-2+2)

紀平 直人(M1) 1組2着 48.03 Q

浅井 良(2) 2組3着 48.32 q

小谷 哲(3) 3組4着 48.75

予選1組には紀平(M2)が出場した。スタート直後は大体大の片岡が積極的に飛ばしたが、紀平も1つ外のレーンの選手を追い抜

き、先頭争いをしつつ 200 を通過した。片岡はここから減速し、200 からはランキングトップの近大河内が強さを見せて独走し結局 1 位でフィニッシュした。紀平は後続の追い上げから逃げ切り、2 位に入って決勝進出を決めた。

予選 2 組には浅井(2)が出場した。スタートから、浅井の 1 つ内のレーンを走る関学大杉原が積極的に飛ばした。浅井はスタート直後に杉原に抜かれたが、200m まで上手く杉原について行った。ラストは杉原と、ランキング 2 位の 9 レーン近大高橋とのデッドヒートとなったが、結局杉原が 1 位でフィニッシュした。浅井はラストの 100m で 3 位争いから抜け出し、杉原、高橋に次いで 3 位でフィニッシュした。予選 3 組終了後、タイムによって決勝進出を決めた。

予選 3 組には小谷(3)が出場した。前半は 8 レーンの同志社渡部が積極的に飛ばしたが、全体的にレースはそれほど速くは展開されなかった。小谷は序盤は 3 レーン大体大の脇についていった。レースはラストの 150m から大きく動き、立命館大・小原、京産大・久保田、近大・瀬戸がデッドヒートを繰り広げた。結局、久保田、小原、瀬戸の順にフィニッシュした。小谷はラストの直線で追い上げたが、4 位でフィニッシュし、タイムでの決勝進出もならず予選敗退となった。(堀葉)

男子 100m 予選 (4-3+4)

安藤 滉一 (4) 2 組 7 着 10.78 +1.7

男子 100m 予選には主将である安藤(4)が出場した。

安藤は得意のスタートでいい反応を見せ、前半で前に立った。中盤を追い風に背中を押されてスムーズに走ったが、強豪たちの追い上げについていくことが出来ず、SB ではあるが悔しい結果となった。(横山寛)

男子 110mH 予選 (3-2+2)

小野 貴裕 (3) 3 組 8 着 18.94 +1.0

男子 110mH には小野(3)が出場。スタートが決まり、序盤は強豪相手に食らいつく。その後も粘り、好記録が期待されたが、9 台目で軽く脚が引っかけりバランスを崩し、最終ハードルで転倒した。ベストの大幅更新が目前に控えていただけに悔やまれる結果となった。(岡本郁)

男子 4×100mR 予選 (2-3+2)

安藤—加藤—備藤—土屋 2 組 5 着

40.94 q

目標は決勝進出。着順での予選通過は厳しく、タイムで通過を狙う。1 走の安藤は安定した走りで役割を果たす。1-2 走間のバトンパスが決まり、2 走の加藤は格上を相手に引けをとらない走りを見せる。3 走の備藤へのバトンパスは完璧で、周りからの遅れを最小限に保って好走する。4 走の土屋は意地の走りで他の大学を追走しゴール。見事に 40 秒台を出してタイムの 2 番目で決勝進出を決めた。(芦田)

男子 5000m 決勝

1 位 石井 優樹(関西学院大 3) 14:25.93

2 位 辻村 公佑(立命館大 4) 14:26.51

3 位 柴田 裕平(京都大 M1) 14:29.04

DNS 尾崎 拓(京都大 M1)

男子 5000m には、尾崎(M1)は欠場し、柴田(M1)は出場した。柴田は、始めに先頭に出てリズムよく集団を引っ張った。ただ 1000m 地点で他大の選手に先頭に出られて、スローペースにされてしまう。2000m から 3000m にかけてはハイペースとなり、揺さぶりがかけられる。とてもきつそうであったが、なんとか食らいついていき、最後の一周まで順位が決まらずレースが進む。混戦の中、最後に 2 人抜き、3 位をもぎとった。この走りは、チームに多大な勢いをもたらした。(久田)



↑5000m で3位入賞した柴田(M1)
見事ランキングを覆した。

男子ハンマー投げ決勝

- | | | |
|------|-------------------|----------|
| 1 位 | 吉野 健太郎(大阪体育大学 M1) | 62m18 |
| 2 位 | 中山 海斗(大阪体育大 2) | 60m77 |
| 3 位 | 森垣 和也(大阪教育大 5) | 59m19 |
| 16 位 | 若園 直樹(京都大 M2) | 49m53 PB |
| 19 位 | 三谷 圭(京都大 3) | 41m75 |

一日目男子ハンマー投には、若園(M2)、三谷(3)が出場した。決勝進出ラインは54m47 とハイレベルな試合となったが、若園は大台の50m 超え、三谷はPB 更新とそれぞれの目標を持って試合に挑んだ。若園は2 投目に大きく態勢を崩しながらも放った投擲が自己新となり、態勢を建て直してのベスト8 進出が期待されたが、3 投目で転倒してサークルから出てしまい、ファールになってしまう。三谷は3 回の投擲

を通して徐々に記録を伸ばしたが自身初の関カレ出場による緊張で終始ハンマーを腕で引っ張る強張った投げとなってしまう、惜しくも実力を発揮できなかった。今後京大が迎える七大戦で三谷の大きな活躍に期待したい。(藤田)

十種競技(前半)

平島 敬也(京都大 3) 3189 点
(暫定 12 位)

100m 11.23 +0.2 PB

400m 53.29

走幅跳 6m36 +0.9

走高跳 1m75

砲丸投 9m55 PB

男子十種競技には平島(3)が出場した。天候が荒れる中大阪インカレでB 標準を切り、今回は6000 点超えで8 位入賞が期待された。100m では11.23 と自己ベストを更新し組1 着でゴールし、京大に非常に良い流れを作った。続く走幅跳では1 本目にしっかりとセカンドベストをマークし、砲丸投では安定して9m 越えの投擲を見せ、大カレに引き続き自己ベストを更新した。走高跳は左ハムストリングの痛みもあり1m75 にとどまったが最低限の記録をマークした。1 日目最終種目の400m は競技日程が詰まっていたこともあり疲労が溜まっていたため後半に失速したが粘りの走りで2 日目につなげた。初日は2 つの自己新を更新し非常に良いスタートとなった。(松井)

対校得点(二日目終了時点)

男子一部総合得点

- | | | |
|-----|--------|------|
| 1 位 | 京都産業大学 | 21 点 |
| 2 位 | 立命館大学 | 18 点 |

3 位	関西学院大学	15 点
3 位	大阪体育大学	15 点
7 位	京都大学	6 点

女子総合得点

1 位	園田女子学園大学	17.5 点
2 位	武庫川女子大学	15 点
3 位	立命館大学	15 点
	京都大学	0 点

第三日目 5月11日(金)

男子 1500m 予選 (2-4+4)

清原 陸	(2)	1 組 2 着	3:56.98
			PB Q
岡野 颯斗	(M2)	1 組 12 着	4:10.14
木村 佑	(2)	2 組 6 着	3:56.46
			PB q

1 組には岡野(M1)と清原(2)が出場した。レースは序盤大体大・山田が引っ張り、岡野は集団の中心あたり、清原は集団後方に位置していた。レースは集団のまま後半まで展開されたが、岡野は徐々に後方に位置を落とし、逆に清原は徐々に順位を上げていった。ラスト1周に差し掛かると集団はばらけ始め、清原は先頭争いの最後尾に付けたが、岡野は離された。ラストの直線で関学大・鍋島がスパートして1位でフィニッシュし、清原も2位争いから抜け出して2位でフィニッシュした。岡野は12位で予選敗退となった。2組には木村(2)が出場した。レースは1組同様集団で進んだ。木村は序盤は集団の中心付近に、中盤には集団後方に位置してレースを進めた。ラスト1周で集団は縦長になり、立命館大・亀鷹が

一気にスピードを上げて、そのまま逃げ切って1位でフィニッシュした。木村は集団後方から追い上げ、6位に入った。レース後、タイムにより決勝進出を勝ち取った。(堀葉)

男子 400m 決勝

1 位	河内 光起	(近畿大 3)	47.27
2 位	久保田 大揮	(京都産業大 3)	47.54
3 位	小原 吏貴	(立命館大 3)	47.92
4 位	紀平 直人	(京都大 M2)	47.96
7 位	浅井 良	(京都大 2)	48.23

男子 400m 決勝には紀平(M2)、浅井(2)が出場した。紀平は序盤やや出遅れ他大学の選手に先行されラスト 100m までは最下位付近にいたがそこから粘りの走りで監督としての意地を見せ、前の選手を次々と抜き見事4位でゴールした。浅井は予選に引き続き大学ベストを更新する会心の走りでランキングを大きく覆し、最後まであきらめない粘り強い走りで7位でゴールした。紀平、浅井の二人でこの種目7点を取り関西インカレ一部残留を大きく手繰り寄せ、次の日以降の男子4×400mRに大きく弾みをつけた。(宇佐美)



↑ 400mで4位入賞した紀平
マイルリレーでもエースとして走った。

男子 1500m 決勝

1 位	鍋島 基 (関西学院大 4)	4:02.02
2 位	西條 功一(関西大 4)	4:02.24
3 位	宮下 朝光(京都産業大 3)	4:02.66
10 位	木村 佑 (京都大 2)	4:05.83
11 位	清原 陸 (京都大 2)	4:06.69

1500 決勝には共に 2 回生の木村と清原が出場した。飛び抜けた資格記録の選手がいなかった本競技では順位争いのためスローペースのスタートとなり、序盤は清原が先頭で風を受けながら走ることで木村は大回りではしることとなり、二人とも苦しい展開となった。後半 900m 通過あたりで関西学院の選手を筆頭に一気にペースがあがった。二人は持ち前の持久力でねばりを見せたものの前半の消耗が響き惜しくも入賞にはとどかなかった。(梶原)

男子 4×100mR 決勝

1 位	関西学院大	39.14
2 位	近畿大	39.42
3 位	立命館大	39.79
8 位	京都大(安藤—加藤—備藤—土屋)	41.33

男子 4×100mR 決勝には安藤(4)、加藤(2)、備藤(M2)、土屋(M2)が出場した。1 走安藤は持ち前の力で他大学の選手と引けを取らない走りをして、主将としての意地を見せたが、1,2 走間のバトンパスは少し詰まってしまった。2 走加藤も同志社、近大と内外共に速い選手が揃う中粘った走りを見せた。3 走備藤は内側の同志社に離されるも意地を見せ、懸命に前を追いかけて 4 走土屋へ繋ぐ。土屋は他大学が先行する

中食らいつく走りを見せるも及ばず、8 着でのゴールとなった。予選通過時のタイムより 0.4 秒程遅い記録となったが、天理大をかわして決勝に進出、そして得点してくれたことはチームにとって目標の一部残留へと繋がる大きな一歩であった。(数多)

男子三段跳決勝

1 位	原田 睦希(立命館大 4)	15m87 +1.1
2 位	岡林 隼矢(びわす大 M2)	15m58 +1.6
3 位	田中 駿平(立命館大 4)	15m55 +0.7
12 位	三神 惇志(京都大 3)	14m68 +0.8
19 位	伊東 悠希(京都大 4)	14m28 +0.4

男子三段跳決勝には三神惇志(3)と伊東悠希(4)が出場した。三神は 1 回目向かい風が吹く中 14m46(-0.2)を跳び、2 回目 14m37(+2.4)、3 回目 14m68(+0.8)と 3 回目でしっかり立て直し、ベスト 8 には惜しくも残れなかったものの安定した跳躍をみせた。伊東(4)は最後の関西インカレであった。1 回目 14m28(+0.4)と好調であったが、2 回目 14m19(+0.3)と記録を伸ばすことが出来ず、3 回目はファールとなってしまった。惜しくも 2 人とも決勝進出はならなかったものの、大舞台で堂々とした跳躍を見せてくれた。(上島)

女子走高跳決勝

1 位	津田シェリアイ(東大阪大 4)	1m78
2 位	秦 澄美鈴(武庫川女子大 4)	1m75
3 位	荒木 志帆(武庫川女子大 3)	1m72
10 位	林 玲美 (京都大 4)	1m65

女子走高跳には林玲美(4)が出場した。1m55 から試技を開始し、1m55 は 1 回目で成功させ 1m60、1m65 もそれぞれ 2 回

目で成功させる。蒼穹記録並びに自己ベストのかかった 1m69 に挑戦したが、惜しくも 3 回とも失敗。6 位までが 1m65 の混戦であり入賞の可能性は大いにあったが試技数により 10 位であった。(宇佐美)

女子やり投げ決勝

- | | | |
|-----|-----------------|-------|
| 1 位 | 武本 紗栄(大阪体育大 1) | 53m59 |
| 2 位 | 野下ちはる(大阪体育大 2) | 49m67 |
| 3 位 | 栗原千賀子(武庫川女子大 1) | 48m06 |
| 9 位 | 中野 水貴(京都大 2) | 45m55 |

女子やり投げには中野(2)が出場した。一投目、ベストにせまる 45m55 をマークした。二投目は 42m71 であったが、二投目終了時点では 8 位内につけた。しかし三投目、二投目までは中野が勝っていた園田学園女子大の一年生が 48m 超えの記録を出し中野を上回った。中野の三投目は一投目の記録を超えず惜しくも 9 位で終了した。(梶原)

十種競技(後半)

- | | | |
|-----|-----------------|--------|
| 1 位 | 別宮 拓実 (同志社大 3) | 6883 点 |
| 2 位 | 岡田 大輝 (大阪体育大 3) | 6710 点 |
| 3 位 | 杉本 亮太 (大阪体育大 3) | 6663 点 |
| 5 位 | 平島 敬也 (京都大 3) | 5791 点 |

PB

110mH 16.67 +0.1

円盤投 30.03m

棒高跳 3m80

やり投 44m23 PB

1500m 5.27.54

2 日目は気温も上昇し非常に良いコンディションとなった。110mH は大カレでの悪いイメージを払拭し、うまくまとめることができた。円盤投は今シーズンは思うように記録が伸びていなかったが 30m を投げることができた。棒高跳は今シーズン 4m20 の自己ベストをマークしていたが、十種競技での棒高跳で疲労があったためか 3m80 に終わった。やり投では春先から順調に調子を上げ自己ベストを更新した。平島は残り 1 種目を残して暫定 9 位となったが、苦手とする 1500m で攻めの走りをするも入賞を逃した。

上位入賞者の多くが 3 回生だったため来年は過去最高にハイレベルな試合になることが予想されるが、平島を中心に混成パートがどこまで食らいつけるかに期待がかかる。(松井)

対校得点 (三日目終了時点)

男子一部総合得点

- | | | |
|-----|--------|------|
| 1 位 | 立命館大学 | 75 点 |
| 2 位 | 関西学院大学 | 68 点 |
| 3 位 | 京都産業大学 | 58 点 |
| 9 位 | 京都大学 | 14 点 |

女子総合得点

- | | | |
|-----|----------|--------|
| 1 位 | 立命館大学 | 69 点 |
| 2 位 | 大阪成蹊大学 | 42.5 点 |
| 3 位 | 園田学園女子大学 | 37.5 点 |
| | 京都大学 | 0 点 |

第四日目 5 月 12 日 (土)

女子 200m 予選 (6・3+6) +0.1

小野 萌子 (4) 1組 8着 26.92

女子 200m には小野(4)が出場した。前半はスタートから遅れをとってしまうものの後半は 400m 選手という持ち味を活かし、なんとか前の選手に食らいついた。この記録は京都インカレに続き自身 2 度目となる 26 秒台であり、昨年からのレベルアップが見られた。(長谷川隼)

男子 200m 予選 (4-3+4)

土屋 佑太 (M2) 3組 4着 21.93 -0.2

安藤 滉一 (4) 4組 5着 21.70 +1.0

3 組に土屋(M2)、4 組に安藤(4)が出場した。土屋は、3 着に入りたいところであったが、4 着となり、プラスにも拾われず、得点が期待されていただけに、惜しい結果となった。4 組の安藤は 4 本目のレースとなった。100m が振るわなかった分、ここで挽回したかったが、こちらも惜しい結果となった。(久田)

男子 800m 予選 (3-2+2)

土屋 維智彦 (3) 1組 8着 1:56.11

田中 達也 (4) 2組 9着 1:59.88

木村 佑 (2) 3組 4着 1:53.03

男子 800m 予選には 1 組に土屋(3)、2 組に田中(4)、3 組に木村(2)が出場し、非常にハイレベルな戦いになることが予想されていた。土屋は前半から攻めのレースをみせ 600m まで自己ベストを更新するペースであったが、そこからじりじりと引き離された。組全員が格上であった田中はどこまで集団についていけるかという展開となった。タイムこそ 1'59"88 で組 9 着であったが、パートチーフとして挑む初めての関西インカレで出せる力は全て出し切った。今シーズンに入って実力をつけ、決勝進出を狙った木村は集団の後ろにつける展開となった。500m を通過しバックストレートか

ら徐々に順位を上げていったが、最後まで前半の差を埋めきれず 1'53"03 で全体 10 位だった。本人にとってもチームにとっても悔しい結果となった。(清原)

女子 4×400mR 予選 (2-3+2)

小野—後藤—花房—安藤 1組 8着

4:11.77

1 走小野(4)、2 走后藤(3)、3 走花房(2)、4 走安藤(2)の走順。花房と安藤はそれぞれハードルと中距離専門ながらこのマイルに向けて短長の練習をしてきた。目標は阪大に勝つこと。ラップは走順に 60.5-59.2-65.2-66.7 だった。1 走小野 2 走后藤は安定感のある走りで序盤にエースをもってきた阪大に迫ったが、3 走 4 走で大きく離されることとなった。阪大は 3'56"85 の好記録を叩き出し、京大の目標達成は叶わなかった。まだ若いメンバーで大きな伸び代をもっている、これからの 3 分台に期待をしたい。(岡本郁)

男子 4×400mR 予選 (2-3+2)

小谷—紀平—小原—浅井 2組 2着

3:11.10 Q **蒼穹新**

男子 4×400mR 予選には、小谷(3)、紀平(M2)、小原(3)、浅井(2)が出場した。1 走の小谷は前半からの攻めた走りで前に食らいつき、2~3 番手あたりでバトンパス。400m での雪辱を果たした結果となった。2 走の紀平はオープンレーンに入ったところで 2 位の後ろにしっかりとつき、ホームストレートでかわして 2 位でバトンを繋いだ。3 走小原は 1 位の関学から少し離されたものの、食らいつく走りを見せた。300m 付近で 3 位の関大が迫ってくるも粘り勝ち、4 走の浅井へ繋いだ。浅井は接戦の中バトンを受け取ると持ち前のスピードで 3 位の関大を置いていき、ホームストレートでは 1 位関学と競り合う位置までせまり、2 着を確定させてゴール。着順で決勝進出し、今までの蒼穹記録を塗り替える走

りを見せてくれた。チームに追い風を吹かせてくれたマイルメンバーの決勝での走りに期待される。(数多)

男子 10000m 決勝

1 位	石井 優樹(関西学院大 3)	30:01.09
2 位	吉岡 遼人(立命館大 2)	30:05.32
3 位	今井 崇人(立命館大 3)	30:06.73
10 位	久米 祐輔(京都大 M2)	31:10.54
14 位	柴田 裕平(京都大 M1)	31:40.16

DNS 尾崎 拓 (京都大 M1)

男子 10000m には、尾崎(M1)は欠場し、久米(M2)と柴田(M1)は出場した。始めは、柴田は、5000m 同様先頭に出て、積極的にレースをすすめる。久米も先頭集団につく。ただ早くに集団が二つに分かれて、柴田は先頭集団、久米は 10 位集団について走る。3000m 付近で柴田が徐々に集団から離れてしまう。そして柴田と 10 位集団が合流し、9 位集団となる。柴田は、一時は粘るが、粘りきれず集団からおちてしまう。久米は、粘りを見せるが 5000m 付近で 9 位集団の 2 人が抜けだし 11 位集団となってしまふ。久米は、ラストは驚異的なスパートを見せ、1 人抜かして 10 位でゴール。柴田は、14 位でゴール。柴田は、冬練がつめていなく、長い距離には、対応できなかった。得点とはならなかったものの、久米の走りはチームを盛り上げた。(加藤)

女子三段跳

1 位	田上 陽菜 (関西大 2)	12m73 +3.2
2 位	武村 明香 (神戸大 3)	12m67 +1.9 NGR

3 位	秦 澄美鈴 (武庫川女子大 4)	12m64 +1.9
-----	------------------	------------

18 位	広川 知佳 (京都女子大 3)	11m46 +0.6 PB
------	-----------------	---------------

女子三段跳びには、広川(3)が出場した。去年は、NM と悔しい結果になったことから今年は、しっかりと記録を残し 12m を跳ぶことを目標としていた。結果としては、3 本ともしっかりと記録を残した。今回の記録となる 11m46 は、PB であり、昨年からの成長を感じる。さらなる成長を期待したい。(久田)

男子走幅跳決勝

1 位	遠藤 泰司 (立命館大 3)	7m87 +2.3
2 位	吉田 弘道 (立命館大 1)	7m67 +2.4
3 位	谷口 祐 (立命館大 3)	7m55 +0.8
19 位	本居 和弘 (京都大 3)	6m93 +1.8 PB

男子走幅跳決勝には本居和弘(3)が出場した。関西インカレの大舞台で他大の格上の選手を相手に堂々とした跳躍をみせ、1 回目 6m26(+0.7)2 回目 6m82(+0.4)と順調に記録を伸ばし、3 回目には 6m93(+6.8)と自己ベストを更新した。関西インカレという大舞台で自己ベストを更新し、今後の活躍が期待される。(上島)

女子円盤投決勝

1 位	清水 麻衣(びわ学大 4)	48m03
-----	---------------	-------

2 位 影山 絢香(大阪体育大 3) 44m51

3 位 吉留明夏里(大阪教育大 M1)44m48

15 位 横山 優花 (京都大 4) 33m95

女子円盤投には横山(4)が出場した。女子の 12 位相当をひきよせるべく大量得点が、目標。1 投目、緊張からか力んでしまい、うまく飛ばずに 20m60。2 投目、安定した投げを見せ、33m95。ただこれでは、エイトには残れない。13 位でむかえた 3 投目、惜しくも場外に飛んでしまいファール。結果 15 位。ベストが出ていれば、エイトに残れていたことからとても悔しい結果となった。(久田)

男子円盤投決勝

1 位 岡崎 一輝(立命館大 3) 48m75

2 位 福井 智幸(京都教育大 3) 44m98

3 位 大橋 悟 (京都大 3) 43m97
PB 蒼穹新

男子円盤投には大橋(3)が出場した。事前のランキングでは 43m 前後の選手が混戦する中 3 位であり、何としてもこの順位を死守したいところであった。プレッシャーのかかる中、大橋は 1 投目から 41m を大きく超える投擲を見せ 3 投目に 43m97 で自己ベストかつ蒼穹新の記録を打ち立て見事 3 位をもぎ取った。チームの 1 部残留に大きく貢献し、これからの更なる活躍にも目が離せない。(清原)



↑円盤投げで 3 位入賞した大橋(3)
去年から大きく成長した。

対校得点 (四日目終了時点)

男子一部総合得点

1 位 立命館大学 122 点

2 位 関西学院大学 89 点

2 位 京都産業大学 63 点

10 位 京都大学 20 点

女子総合得点

1 位 立命館大学 84 点

2 位 大阪体育大学 44 点

3 位 園田学園女子大学 42.5 点

京都大学 0 点

第五日目 5 月 13 日(日)

女子 10000mW 決勝

1 位 杉山 智香 (同志社大 3)

48:05.77

2 位 外所 知紗 (同志社女大 2)

49:20.47

3 位 浅野 眞代 (大阪市立大 3)

49:32.35

5 位 高野 寛子 (京都大 4)

51:16.29

女子 10000mW には高野(4)が出場した。大雨の降る中でスタートし、先頭 6 人が集団を形成する中で、二番目の集団で 1 周 2 分 04 秒前後のペースでレースを進めた。先頭集団から落ちてきた選手を抜き、もう一人落ちてきた選手とレースを進める場面もあったが、ペースが再び上がるとまた一人でレースを進めることになった。ラスト 2000m からは後続の選手が 50m 程度まで近づく場面もあったが、自らのペースで歩き切り、5 位でゴールした。(澤田)



↑ 10000mW で 5 位入賞した高野(4)
女子で唯一得点した。

男子 10000mW 決勝

1 位 森田 靖 (龍谷大 3) 41:28.55

2 位 塩屋 陸 (びわスポ大 3) 41:57.25

3 位 高野 圭太(京都大 4) 42:17.76

12 位 亀田孝太郎(京都大 3) 44:38.51

男子 10000mW には高野(4)、亀田(3)が出場した。スタートと同時に両者は先頭集団の後ろで様子を伺っていたが、4000m 付近で亀田列から離され同志社の選手と周回し、高野は逆に列を離れてびわスポの選手についていった。それからしばらく高野は 2 位のびわスポの選手と抜いたり抜かれたりを繰り返していたが、7000m 付近でびわスポの選手が完全に抜け出した。高野は相手の実力の高さを考え、さらに後続が十分離れていることを確認したうえで、びわスポの選手を無理に追わずに 3 位を確保することを選択した。亀田は苦しみながらも同志社の選手に競り勝ち、12 位でゴールした。京大の競歩での予想得点は 3 点であったが、結果はランキングを大きく覆す 6 点であった。この競歩パートの活躍が最終日の京大に力を与え、関西インカレ 1 部残留に大きく貢献したと言える。(増尾)



↑ 10000mW で 3 位入賞した高野(4)
男子 1 部残留を大きくたぐり寄せた。

男子 3000mSC 決勝

1 位 吉野 駆流(大阪体育大 4) 8:56.11

2 位	板東 剛 (関西学院大 4)	9:01.16
3 位	小嶋 一魁(関西学院大 4)	9:06.81
10 位	稲垣 達也(京都大 M2)	9:37.24
15 位	岡野 颯斗(京都大 M2)	10:42.36
DNS	土田 侑秀(京都大 4)	

男子 3000mSC には足首の怪我により棄権した土田(4)を除く稲垣(M2)と岡野(M2)の 2 名が出場した。スタート直後に勢いよく岡野が飛び出し先頭で最初の障害に向かったが、そこで後続の立命館大、龍谷大、大阪教育大の選手とともに転倒。波乱の幕開けとなった。さらに先頭が終始キロ 3 分を切るハイペースでレースを進めたため、序盤から縦長の展開となった。稲垣は真ん中後方あたりからレースを進めた。終始 8 番手が見える位置でレースを進めたが惜しくも入賞には届かず 10 位でのフィニッシュとなった。一方スタート直後に転倒した岡野はそこからリズムを作れず最後まで最後方で走ることとなった。京大としては入賞がならず悔しい結果となった。(木村)

男子 4×400mR 決勝

1 位	近畿大	3:09.66
2 位	関西学院大	3:10.29
3 位	京都産業大	3:10.77
4 位	京都大(小谷—紀平—小原—浅井)	3:10.82 蒼穹新

男子 4×400mR には小谷(3)-紀平(M2)-小原(3)-浅井(2)が出場した。7 位以上で 1 部残留というプレッシャーのかかる中、1 走の小谷は持ち前の安定の走りを見せ好位置で 2 走の紀平へと繋いだ。紀平は連日の疲労により足に不安がある中、監督として意地を見せ最後の直線では前を行く 3 大学をかわし、トップで小原へとバトンを渡した。小原は順位こそ落としたものの、47

秒台に迫るラップタイムで粘りの走りを見せた。5 位でバトンを受け取った浅井は連日の疲れを感じさせない快走でチーム最速のラップタイムを叩き出し、3 位に 0.05 秒まで迫る 4 位でゴールした。惜しくも目標としていた表彰台には届かなかったものの、悪天候の中で蒼穹新、並びにチーム目標である 1 部残留を決定づける素晴らしい結果に応援席は大いに沸いた。今後は全日本インカレなどのさらなる舞台での活躍と記録更新に期待がかかる。(中野)

女子走幅跳決勝

1 位	辻本 愛莉香 (大阪成蹊大 4)	6m03 +0.1 NGR
2 位	山下 友佳 (立命館大 3)	5m74 +1.0
3 位	秦 澄美鈴 (武庫川女大 1)	5m74 +1.7
29 位	広川 知佳 (京都女子大 3)	4m71 -0.8

女子走幅跳には広川(3)が出場。今回は、PB を目標としていた。トップ 8 進出ラインは 5m42 とハイレベルであった。広川は前日の三段跳の疲労や緊張もあってか、あまり調子があがらない。1 本目は、ファール。2 本目は、4m71 と PB には及ばない。3 本目もファール。PB はまたの持ち越しとなったが、ぜひ PB を期待したい。(久田)

男子走高跳決勝

1 位	東 直輝 (立命館大 1)	2m05
2 位	大西 健介 (立命館大 2)	2m05
3 位	木場 宏樹 (天理大 4)	2m05

坂口 裕飛 (京都大 1) NM

男子走高跳決勝には坂口(1)が出場した。1m85 から試技を開始したが、3 本とも助走でスピードに乗れずに高さの足りない跳躍でバーを落としてしまった。2m06 の記録を持つ坂口だが、受験開けであり、さらに先日の練習で肉離れを起こしてしまい、本調子とは程遠い結果となった。悔しさも残るが、まずは怪我を治し、今後の活躍に期待したい。(横山寛)

男子棒高跳決勝

珍坂 涼太 (M1)

悪天候のため競技中止。(増尾)

女子砲丸投決勝

1 位 田村 満孔(大阪体育大 3) 13m83

2 位 廣畑 万季(武庫川女子大 4)
13m73

3 位 山本 遥 (大阪体育大 4) 13m21

17 位 中野 水貴(京都大 2) 9m70

女子砲丸投には中野(2)が出場した。砲丸投はサブ種目として取り組んでいるが、京都インカレで大幅にベストを更新し、好調のまま今回の関西インカレに臨んだ。大雨の降る中で競技は行われ、サークルには水が溜まり、砲丸は常に濡れているようなコンディションだった。1 投目に 8m93、2 投目に 8m15 を投げ、思い切ってスピードを出して投げた 3 投目には 9m70 と、悪コンディションの中でベストに近い投擲を見せた。(澤田)

男子やり投決勝

1 位 中西 啄真(大阪体育大 M2)72m77

2 位 坂本 達哉(大阪体育大 4) 70m71

3 位 石坂 力成(大阪体育大 3) 67m51

18 位 浅野 智司(京都大 M1) 50m80

22 位 中山 奎吾(京都大 3) 49m25

4 日目男子やり投には浅野(M1)、中山(4)が出場した。最終日となるこの日のみ多量の雨が降る中での試合となった。練習投擲では選手の多くが持ち記録より 5m 下の投擲をしており、結局決勝進出ラインも去年より 6m 低い 56m41 となった。中山はこの関カレに懸けていた思いが強かったが、冬の始めに肩を怪我した後、一切練習でやりを投げるができなかったことから、持ち記録からベスト 8 進出を見込めたが、それはかなわなかったのも、本人にとって大変悔しい結果となった。浅野は自身の苦手な振り切りを冬で練習していた。しかし、悪天候に加え自身の肘の怪我に悩まされ記録が振るわなかった。来る七大戦に向けて中山は蒼穹新の更新及び優勝、浅野は来年の関カレでの更なる活躍に期待したい。(藤田)

4.新入生名簿

氏名	フリガナ	学部学科	出身高校（都道府県）	パート	種目	ベスト
足立 舜	アダチ シュン	理・理	膳所（滋賀）	長	5000m	15'11"34
石田 風太	イシダ フウタ	工・物工	一宮(愛知)		棒高跳、400m	3m70、52"7
泉 竣哉	イズミ シュンヤ	経済	北野(大阪)	長		
岩井 響平	イワイ キョウヘイ	理	堀川(京都)	跳	走幅跳、三段跳	5m85、12m91
太田 一成	オオタ イッセイ	工・物工	天王寺(大阪)	短短	100m	11"58
奥村 夏子	オクムラ ナツコ	工・地球工	国際基督教大学（東京）	短短	100m	13"76
乙守 倫太郎	オトモリ リンタロウ	工・建築	宮崎西(宮崎)	中	800m、1500m	1'58、4'11
鴨田 佳奈	カモダ カナ	農・食品	高松(香川)		マネージャー	
川 俊太	カワ シュンタ	工・電電	滝(愛知)	中	800m	2'02"51
川井 景太	カワイ ケイタ	経済	北野(大阪)	中	800m、1500m	1'58"01、4'07"43
木野村 隆宏	キノムラ タカヒロ	総人	加藤学園曉秀(静岡)	長	1500m、5000m	4'21、16'39
黒川 泰暉	クロカワ ヤスキ	農・資源	天王寺(大阪)	跳	棒高跳	3m10
犀川 啓太	サイカワ ケイタ	工・物工	洛南(京都)	短長	400m	51"01
酒井 良祐	サカイ リョウスケ	工・地球工	一宮(愛知)	ハードル	110mH、400mH	15"72、56"17
阪口 裕飛	サカグチ ユウヒ	理	堀川(京都)	跳	走高跳	2m06
清水 厚佑	シミズ コウスケ	工・地球工	静岡高校(静岡)	長	1500m、5000m	4'02、15'04
鈴木 蒼大	スズキ ソウタ	教育	水戸第一(茨城)	長	5000m	15'49"20
鈴木 洋太郎	スズキ ヨウタロウ	文	日比谷(東京)	長	5000m	15'45"13
高木 穂乃香	タカギ ホノカ	工・工化	北野(大阪)	中長	3000m、1500m	11'14、5'24
武波 夏輝	タケナミ ナツキ	工・情報	茨木(大阪)	短長	400m	50"96
田中 大智	タナカ タイチ	工・物工	天王寺(大阪)	短短	走幅跳、100m	6m40、11"00
鶴崎 涼花	ツルサキ スズカ	法	広大附属福山(広島)	中長	経験なし	
鶴見 薫樹	ツルミ マサキ	理	堀川(京都)	長	3000mSC、5000m	10'20、16'40
鄭 晟皓	テイ セイコウ	工・物工	東海(愛知)	短短	100m、200m	11"56、23"8
中尾 友哉	ナカオ ユウヤ	工・物工	長田(兵庫)	中	800m	1'54"30
永田 智季	ナガタ トモキ	工・地球工	三国丘(大阪)	ハードル	110mH	15"5(追参)
仲村 快太	ナカムラ カイト	工・工化	高田(三重)	跳	走幅跳	6m60
西川 真悠	ニシカワ マユ	教育	天王寺(大阪)	中	800m	2'21"64
野田 真志	ノダ マサシ	工・電電	北野(大阪)	短短	100m	11"6
平岡 拓	ヒラオカ タク	工・工化	広大附属福山(広島)	競歩	5000mW	23'??
藤田 雄大	フジタ ユウダイ	工・建築	高松(香川)	短短	100m、200m	10"92、22"14
藤本 涼	フジモト リョウ	総人	天王寺(大阪)	中	3000m	11'14"96
前田 朝陽	マエダ アサヒ	農・森林	時習館(愛知)	短長	100m、400m	11"44、51"56
松原 耕平	マツバラ コウヘイ	農・森林	天王寺(大阪)		学連員	
馬淵 丈	マブチ ジョウ	法	浜松北(静岡)	競歩	5000mW	24'24
村田 憧哉	ムラタ トウヤ	理	富山(富山)	跳	走幅跳	7m01
森本 健太	モリモト ケンタ	農・食品	西大和(奈良)	短短	100m	11"04
柳原 拓海	ヤナギハラ タクミ	工・工化	大手前(大阪)	跳	三段跳	13m67
山口 佳那子	ヤマグチ カナコ	農・食環	甲南高校（鹿児島）		マネージャー/学連員	
山野 陽集	ヤマノ ヨウシュウ	法	県立船橋(千葉)	投	やり投	51m30
山本 祐己	ヤマモト ユウキ	農・資源	大阪星光(大阪)	中	800m	2'10"34
湯谷 樹生	ユタニ タツキ	工・電電	天王寺(大阪)	短短	100m	11"13
吉井 希祐	ヨシイ キスケ	総人	高津(大阪)	短長	400m	52"47
吉村 柊太	ヨシムラ シュウタ	工・工化	堀川(京都)	長	3000mSC	9'47"80
3回生						
松本 佳太	マツモト ケイタ	農・森林	小倉(福岡)	短長	100m、400m	11"10、50"05
院生						
足立 真武	アダチ マナム	情報学研究科		混成		

5.関西インカレOB様名簿

徳廣 桂三 様 S33

三好 稔彦 様 S54

本多 了 様 S34

北村 公亮 様 S55

渥美 保 様 S35

熊谷 元 様 S59

中江 裕三郎 様 S36

安藤 信夫 様 S61

山崎 稔 様 S36

矢内 純太 様 H2

市川 哲 様 S38

岩橋 優 様 H25

平井 真一郎 様 S40

石田 真也 様 H27

森本 正幸 様 S41

豊本 竜希 様 H27

藤原 忠義 様 S41

高石 雅貴 様 H27

鯉谷 忠夫 様 S41

庄司 真 様 H27

山本 和賢 様 S43

松葉 悠剛 様 H27

勝村 弘也 様 S44

岡本 和晃 様 H27

中村 茂夫 様 S48

渡辺 祥 様 H27

池本 忠司 様 S49

宮崎 伶菜 様 H27

桂 総一郎 様 S51

松下 隼人 様 H28

宮下 欣二 様 S51

新村 航輝 様 H28

真野 勝文 様 S53

小野坂 健 様 H28

佐藤 啓太 様 H28

福島 快 様 H28

山西 利和 様 H29

加藤 陸至 様 H29

井上 裕美子 様 H29

坂口 雄太 様 H29

友田 浩平 様 H29

小松 葉瑠 様 H29

川崎 皓斗 様 H29

眞杉 陸 様 H29



蒼穹ニュース 平成30年度 第2号
平成30年5月21日発行

発行所：京都大学体育会陸上競技部
編集者：宇佐美岳良・堀葉俊春・久田雅人（副務）
特別協力：秋本啓太・三田村侑紀（学連員）
加藤寿昂・長谷川隼（記録係）・浅井良（HP 係）
写真担当：花房柚衣香・上島ほのか・岡本郁飛

陸上競技部 HP	http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/
陸上競技部記録 HP	http://www.athletics.kusu.kyoto-u.ac.jp/kiroku/index.htm
関西学連 HP	http://gold.jaic.org/jaic/icaak/index.htm
メールアドレス	strongthrowakiyama@gmail.com（堀葉）